

「ホメオパス（真の治療者）の使命とは何か？」について、考えて行きます。

クラシカルホメオパシー京都（CHK）では、ホメオパシーの創始者ハーネマンが著した『オルガノン』を授業の中心に据えて学びます。（1年目）では、オルガノンで最も大切な§1～70までを中心に学びます。今日は、冒頭の§1～3を読み進めながら、ホメオパスの役割・使命について理解を深めましょう。

ハーネマンは、当時の主流医学に対して、大きな疑問を抱いていました。当時の主流医学の医師（治療者）達が、何を対象にどこを目標に据えてどのように治療して行くか？という基本原則がなかったからです。

当時の主流医学の医師らは、病気の原因を想定し、それを取り除くような治療をしていました。例えば、当時の主流医学が主として行っていた「瀉血療法」では、病気の原因は悪い血や血が多すぎるからだとして決めて（想定して）、それを取り除くことが治療だととらえていました。（英雄医学～激しい治療に耐える）

米国の初代大統領ワシントンは、瀉血療法で、1.2 リットルもの血を抜かれた後に亡くなったそうです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

オルガノン要約～§1・2・3

§1（真の治療家の使命）

医師（真の治療家）の唯一の使命は病める人（**the sick**）の健康を回復することだけである。それを治療と呼ぶ。

§2（理想的な治癒とは）

理想的な治療（**The highest ideal of cure**）とは、明確な根拠に則り、短期間で無害で、速やかで（**rapid**）、穏やかで（**gentle**）、持続的で（**permanent**）、全体的な回復のこと。

§3 真の治療家（ホメオパス）の役割（オルガノンはこの§3に基づき展開）

真の治療家（医師）は次のことを明確に認識・知覚・洞察していなければならない。

これができる人が真の治療家である。

1. 病気の認識＝個々の症例で「何が癒されるべきか？」について
2. レメディの治癒力に関する知識＝個々の「レメディの治癒力」は何かについて
3. レメディの選択と適用とその正しい投与法＝「投与量と反復方法」について
4. 個々の症例で「治癒を妨げているものは何か」どうすれば取り除けるのか。

ケース（事例）を通じて、オルガノン§1・2・3のことを経験してみましょう。